

USB60Term

USB Serial Converter 用

ターミナルアプリ

ユーザーズマニュアル

2019年10月

第1.0版

1.はじめに.....	1
1-1. USB60Termの特徴.....	1
1-2. 対応OS.....	1
1-3. ご注意.....	1
2. USB60Termのインストール.....	2
2-1. USB60Termのインストール.....	2
3. USB60Termの操作.....	3
3-1. 簡易ターミナルアプリ(USB60Term)の操作.....	3
4. USB60Termに関するお問い合わせ.....	6



ラトックシステム株式会社

1.はじめに

USB60Termは、ラトックシステム株式会社製USB-Serialコンバータを使い、USB-Serialコンバータに接続された機器との間でシリアル通信を行うアプリケーションです。

本書はこのUSB60Termの導入ならびに操作方法を説明したマニュアルです。本製品を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず本書をお読みください。

1-1.USB60Termの特徴

- ラトックシステム株式会社製USB-Serialコンバータの以下の製品に対応しています。
RS-USB60FC
REX-USB60MB
REX-USB60MI
REX-USB60F
REX-USB6000E
- 最大230.4kbpsでのシリアル通信が可能です。
- テキストデータ通信のみ対応しています。(バイナリデータに未対応)
- RTS, DTR の制御ラインのオン・オフができます。
- CTS,DSR,RI,DCD のオン・オフ状態を読み出して表示できます。

1-2.対応OS

- Android OS 3.2、Android OS 4.0 以降

1-3.ご注意

- アプリケーションが通信中にUSB-Serialコンバータの取り外しを行わないでください。OSが動作不安定になる場合があります。
- アプリケーションが通信中にサスペンドを行わないでください。正常にサスペンドから復帰できない場合があります。
- 本書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。
- 運用の結果につきましては責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- 製品改良のため、予行なく仕様の一部を変更することがあります。

2. USB60Termのインストール

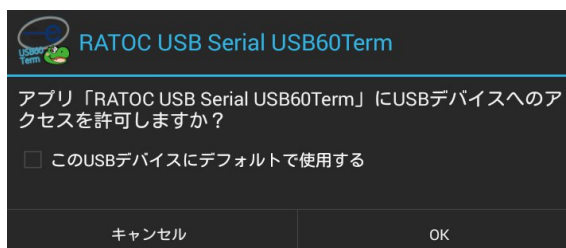
本製品をAndroid端末で使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

- 1) USBポートがホスト機能を持っていること。
- 2) USB Type-C、Micro-USB B、Micro-USB ABのコネクタを持っていること。
- 3) 対応OSであること。（「2-2.対応OS」を参照）

2-1. 簡易ターミナルアプリ(USB60Term)のインストール

簡易ターミナルアプリ(USB60Term)のインストールは、Google Playから行います。

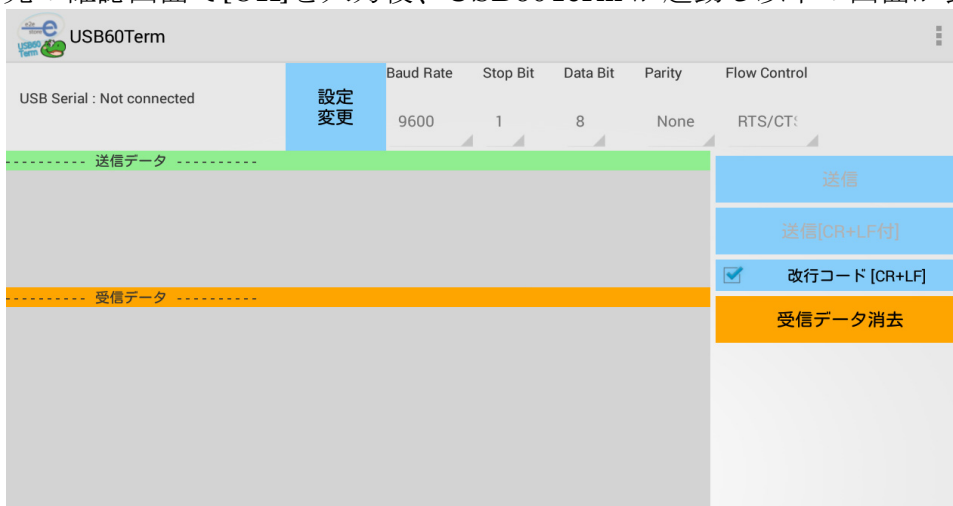
- 1) Google Playを起動し、「USB60」と入力します。
- 2) 検索結果から、「USB60Term」を選択し、インストールします。
- 3) アプリをインストール後に初めてUSBシリアルコンバータを接続すると以下の確認画面が表示されます。



「このUSBデバイスにデフォルトで使用する」にチェックを入れて[OK]を選択してください。

「このUSBデバイスに…」のチェックを入れていないと、USB Serial Converterを接続する度に、この確認画面が表示されます。

- 4) 先の確認画面で[OK]を入力後、USB60Termが起動し以下の画面が表示されます。



画面左上のUSB Serial という項目の右に「Connected」と表示されていれば、USB Serial Converterを正しく検出してデータ送受信が可能な状態になっています。

3. USB60Termの操作

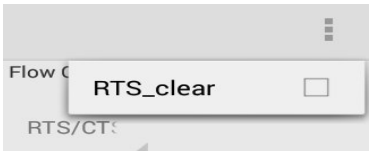
3-1. 簡易ターミナルアプリ(USB60Term)の操作

USB60Termを起動すると以下の画面が表示されます。



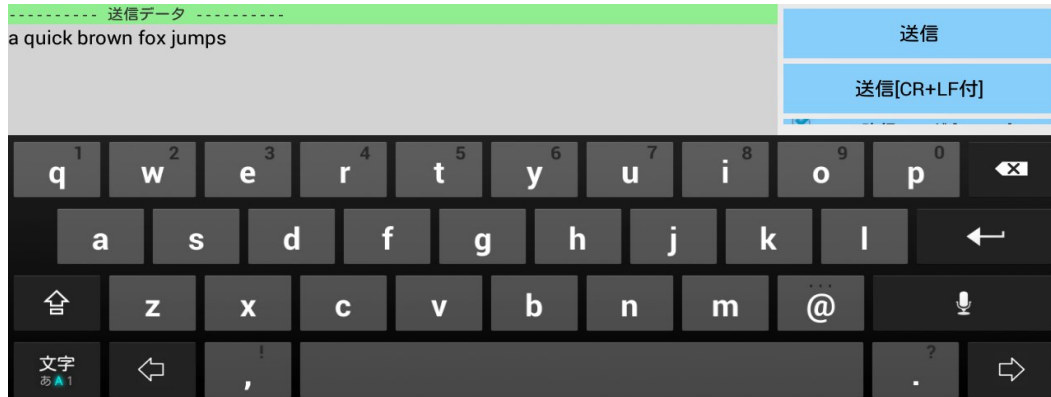
1	USB Serial検出状態表示	USB Serial Converterの検出状態を Connected / Not connected で示す。
2	『設定変更』ボタン	通信パラメーターを変更するためのボタン。パラメーター変更後に[設定書込]ボタンで変更値が反映される。
3	送信データ表示エリア	ここをタップすると、ソフトキーボードが表示され、送信データを入力する。
4	受信データ表示エリア	受信されたデータが表示される。「9:受信データ消去ボタン」をタップするまで表示は保持される。
5	オプションメニュー	オプションメニューを表示します。
6	『送信』ボタン	「3:送信データ表示エリア」に表示されているデータを送信する。
7	『送信[CR+LF付]』ボタン	送信データの最後にCRコード(0x0D)とLFコード(0x0A)を自動的に付加して送信する。
8	『改行コード[CR+LF]』 改行コード変換チェック	送信データ中のLFコード(0x0A)を自動的にCRコード(0x0D)とLFコード(0x0A)に置き換える。
9	『受信データ消去』ボタン	受信データ表示エリアの表示データを消去。

オプションメニュー

RTS_clear <input type="checkbox"/> チェック 	チェックするとポートオープン時にRTS信号がクリア(オフ)に固定されます。特定の接続機器向けに使います。 チェックが外れていると、ポートオープン時のRTS信号は不定です。
--	--

データの送信方法

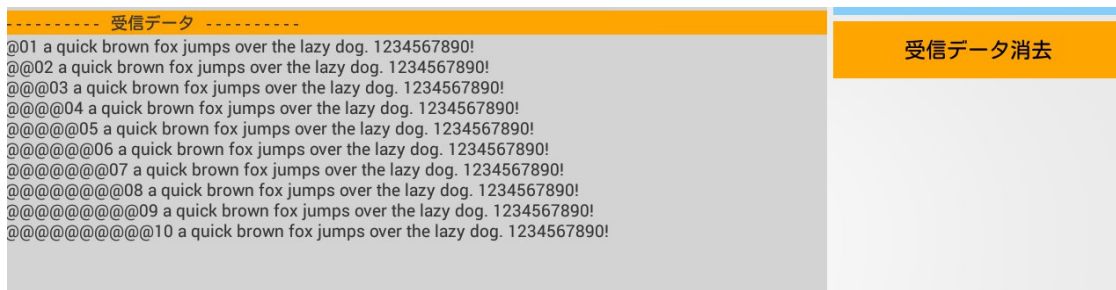
「送信データ表示エリア」をタップすると、ソフトキーボードが表示されるので、送信データを入力します。送信データは、改行を入力して複数行入力できます。



入力が終わったら、画面右側の『送信』ボタンまたは『送信[CR+LF付]』ボタンをタップして、入力されたデータの送信を行います。

データの受信方法

データ受信は常に行われ、受信したデータが「受信データ表示エリア」に表示されます。



『受信データ消去』ボタンをタップすると、それまで受信されたデータを消去します。

通信パラメーターの編集

設定 変更	Baud Rate	Stop Bit	Data Bit	Parity	Flow Control
	9600	1	8	None	None

『設定変更』ボタンをタップすると、シリアル通信の各パラメーターの値を変更できます。編集可能な状態になると、『設定変更』ボタンの名称が『設定書込』に変わり、各値の背景色が水色になります。

設定 書込	Baud Rate	Stop Bit	Data Bit	Parity	Flow Control
	9600	1	8	None	None

ボーレート	ストップビット	データビット	パリティ	フロー制御
Baud Rate	Stop Bit	Data Bit	Parity	Flow Control
9600	1	8	None	None
2400	1	7	None	None
4800	1	8	None	RTS/CTS
9600	2	8	Odd	DTR/DSR
19200			Even	XON/XOFF
38400				
57600				
115200				
230400				

各パラメーターを変更したら最後に『設定書込』ボタンをタップして値を設定します。

4.USB60Termに関するお問い合わせ

本製品に関するご質問がございましたら、下記 Web サイトよりお問い合わせください。

ラトックシステム株式会社 サポートセンター

Webでのお問い合わせ（24時間受付）

<http://web1.ratocsystems.com/mail/support.html>

ご質問に対する回答は、当社営業時間内となりますのでご了承ください。また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

